

平成30年度第2回理事会

日時:2019年1月11日(金)13:00~14:30

場所:東京理科大学理窓会 PORTA 神楽坂6階 第1会議室

出席者:石塚真由美、大河内 博、太田壮一、大塚宜寿、門上希和夫、坂田昌弘、四ノ宮美保、柴田康行、鈴木規之、清家伸康、高菅卓三、高田秀重、鱷迫典久、田辺信介、中島大介、中野 武、橋本俊次、藤峰慶徳、尹 順子、吉永 淳、西島 功(敬称略、50音順、出席理事20名、出席監事1名)

### 1. 会長挨拶(柴田会長)

学会もいろいろと変えていかなければならないのではないかと委員会などからご提案をいただいています。今日はそのあたりを検討し、なるべく前に向けるような形で意見を集約して進めていきたいと思っていますので宜しくお願い致します。

### 2. (定足数について)

定款40条により理事会成立には全理事22名の2分の1以上の出席が必要であり、本日出席理事は20名であり、監事1名も出席し理事会は成立する。

### 3. (議事録について)

議事録はHPへ掲載する。

### 4. (議案審議)

#### 1号議案 役員推薦委員会メンバーの選出の件

- ・2019.2020年度の役員選挙にあたり、役員候補者選出規程にもとづく役員推薦委員会のメンバーを理事から5名選出することについて業務執行理事清家伸康氏より下記の説明があった。
  - ① 役員推薦委員会からの理事の推薦は10名が上限である。
  - ② 理事の定数は30名、監事の定数は2名である。
  - ③ 推薦委員会はメンバー5名中半数の3名以上の出席で成立する。
  - ④ 役員推薦委員会の開催は2月、3月中を検討している。

以上の説明の後、選出は柴田会長に一任され、関東地区在住の柴田会長、清家理事、高田理事、四ノ宮理事、大塚理事が役員推薦委員会のメンバーとして承認された。

#### 2号議案 機関誌「環境化学」の電子ジャーナル化の件

- ・編集委員長である橋本理事から下記の説明があった。
  - ① 2018年12月19日に副編集委員長と編集委員長による編集委員会を開催し、編集委員会において電子ジャーナル化について議論し、電子ジャーナル化を進めることについて理事会に承諾頂きたい。
  - ② 電子ジャーナル化についてはメールニュース内で会員向けに簡単なアンケートが実施され、機関誌「環境化学」が電子ジャーナルのみになることへの抵抗は少ないことが分かった。
- ・電子ジャーナルにすることで投稿料が発生したり、投稿方法が変わったりしないか?  
→投稿料や投稿方法は基本的に変更ないと回答があった。

- これまでの広告費などが入ってこなくなって大丈夫なのか？  
→現時点で年間約 90 万円の広告収入があるが、印刷版がなくなった場合、バナー広告や他の方法を検討する必要がある。広告掲載数は年々減少し、現在 8～10 社で、今後は広告費を期待するのは難しくなる。
- 印刷版を希望される方に POD (オフセット印刷で必要数だけ印刷) を配布する場合、会員から実費を取るのか？  
→他学会では実費を徴収しているところが多い。  
→ホームページに会員ページを作成し、PDF 版の「環境化学」を会員がダウンロードし、必要に応じて印刷して頂けるようにしてはどうか。
- 投稿や掲載が減っているのに J-stage に掲載されなくなる心配はないのか？  
→現在 J-stage のサポートで投稿システム(S1M)を利用できているが、投稿数の減少で、もしサポートを切られた場合には、年間 25 万円程度の費用がかかることになる。
- 電子版になると XML にしなければならぬのではないのか？  
→現状では書誌だけ XML で、本文は PDF で掲載されている。全文 XML が理想的ではあるが、費用がかかる。
- 印刷版がなくなるのに年会費はそのままでもいいのか？  
→電子ジャーナル化することは、会員の利便性を向上させることにつながるのだから会費を下げる必要はない。  
→スマホや電子機器でどこでも見られ、自由に検索でき、保管場所をとらないことも十分なサービスであると思う。  
→会員サービスを充実させることが必要。  
→サービスを充実させるために、会員向けに技術情報も提供することを検討してほしい。  
→ホームページやメールニュースを充実させる必要がある。  
→会員へのメールでの情報発信を充実させ、新着情報がワンクリックで見られるのはありがたい。
- 電子ジャーナル化を機に編集事務局の外注も検討してはどうか。  
→完全外注ではなく、専門知識を有する人材を事務局に確保し、編集事務局を強化すべきではないか。  
→専門知識を有する人を雇用する余裕が学会にあるかどうかは疑問である。  
→一部外注でよいと思う。

以上の説明・質疑応答の後、2 号議案について全会一致で承認され、ジャーナルの電子化を進める。承認後、会長から、編集委員会に対して、編集委員会の案は随時理事に回覧して、みなさんの意見を聞きながら進めてほしいとの要望があった。

議長により平成 30 年度第 2 回理事会の議案審議が終了したことが宣言され、閉会した。

署名人 代表理事 \_\_\_\_\_ 柴田 康行



監事 \_\_\_\_\_ 西島 功

